科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73107	2	後期	必修	1	30
授業科目名 （英文）	基礎看護援助方法Ⅳ（対象の個別性に応じた援助） （Basic for Evidence Based PracticeⅣ）				
担当教員名	宮本 千津子／吉田 澄惠／阿部 恭子／山本 由子 山花 令子／安藤 瑞穂／平田 美和／大西 淳子 新井 麻紀子／藤巻 郁朗／伊能 美和				

授業の概要及び到達目標

授業概要

本科目では、基礎看護援助方法Ⅰ～Ⅲに基づき、健康が障害された人びとの個別的な状態に応じて身体と生活の観察を行い、日常生活を援助する技術を適切に選択し、実施、評価する方法を理解する。この際、並行して開講される各援助論での学修と連関させ、知識の統合と活用方法についても理解する。さらに、看護援助に不可欠なチーム活動のための適切な情報の伝達についても理解し、適切な伝達方法を身に着けることをめざす。なお、本科目は、基礎看護援助実習Ⅱへの導入を兼ねる。

到達目標

1. 健康が障害された人びとの個別的な状態に応じた身体・生活の観察およびアセスメントができる。
2. アセスメントの結果を活かして、状況に応じた日常生活援助技術を選択し、援助を受ける人に応じた方法を計画し、実施することができる。
3. 援助を受ける人の状況に応じた日常生活援助技術を実施した結果を振り返り評価をすることで、アセスメントの結果を活かした看護援助の意味を考えることができる。
4. 看護援助に不可欠なチーム活動のための適切な情報の伝達および適切な伝達方法を習得することができる。

準　備　学　習　等

・基礎看護援助方法Ⅰ～Ⅲで学んだ内容を適宜、復習しておくこと。
・本科目は演習を基本とする。演習に必要な知識は毎回予習をしておくこと。

成績評価の方法	中間テスト（30%）、演習への参加度（70%）とし、総合的に評価する。

テキスト	・T.ヘザー・ハードマン，上鶴重美 原書編集／上鶴重美訳，「NANDA-Ⅰ看護診断 定義と分類 2018-2020 原書」第 11 版，医学書院，2018. ・茂野香おる他，「系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」第 17 版，医学書院，2019. ・任 和子他，「系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ」第 17 版，医学書院，2017
参考図書	授業の中で提示する
備　　考	・基礎看護援助方法ⅠⅡⅢおよびクリティカルシンキングⅡの学習内容を発展させ、基礎看護援助実習Ⅱの基盤となる科目である。 ・オフィスアワーは、履修案内の看護学科「オフィスアワー」の項を参照ください。

授　業　計　画
第 1 回：オリエンテーション：本科目の学習方法、予習、復習の方法 事例紹介 第 2 回：包括アセスメント① 第 3 回：包括アセスメント② 第 4 回：包括アセスメント③ 第 5 回：看護問題の診断とアウトカムの設定 第 6 回：標準計画を用いた介入の計画 ＜日常生活において安全が優先される時期の看護＞ 第 7 回：日々のアセスメント 第 8 回：看護援助の実施 第 9 回：看護援助の実施 第 10 回：評価および看護計画の更新 ＜日常生活において自立促進が優先される時期の看護＞ 第 11 回：日々のアセスメント 第 12 回：看護援助の実施 第 13 回：評価および看護計画の更新 第 14 回：看護における情報の取り扱い①目的をもった観察 第 15 回：看護における情報の取り扱い②看護記録 ※授業の進捗状況により変更する場合があります。